

1.『寝たきり10ヶ月』から奇跡の回復!



10年前に腰を痛めて以来、毎年一度ギックリ腰に悩まされてきた65歳男性(写真左)。2009年の4月にギックリ腰を再発して以来、まったく歩くことができなくなり、ほとんど「寝たきり状態」になってしまった。

大きな病院へ行って検査を受けたが、「どこにも異常がない」という診断だった。再度、別の病院に行っても結果は同じで、「歩けないのはなぜか?」と尋ねたら、「心療内科へ行ってください」と言われ、このとき『自分の腰は、西洋医学では治らない』と悟ったという。

それから、鍼灸、整体、推拿…いろいろ試しても好転せず、むしろどんどん悪化してしまい、5分も腰かけていられず、“食事寝ながら”食べる状態になってしまった。

昨年2月の初め、そんな「病状の経緯」が書かれたFAXで4枚体質研究所に届いた。

2月24日、タクシーで片道1時間かけて私の治療室に来院された。待合室に入るなりすぐ横になられたが、まず『隠れ糖尿病』のビデオを見ていただいた。すると、「俺の腰痛はコレだ!」と、何度も何度も叫んでいた。原因を知って、目からウロコが落ちる衝撃を受けたという。

案の定、『甘いもの浸け』の生活だった。朝目が覚めると、まず人形焼や饅頭など3つ4つ食べて、それから朝食。食後に、砂糖をタップリ入れたコーヒーを飲んで出勤。事務所でも、チョコレートやクッキーやケーキなどを食べながら仕事してきた。さらに肉類は嫌いで、まったく食べなかった。その結果、動脈硬化が進み、筋肉・骨・軟骨などの弾力性が失われてしまったのだ。

その上、10ヶ月も寝たままだったため、体重を支える筋肉がまったくない状態だった。

「また歩けるようになりたい!」という熱意で、その日から食事を180度ガラリと変えた。甘いものは一切食べず、足腰の筋肉を作るために必要な鳥の腿肉を毎日食べるようにした。

そして昔の仕事仲間だったタクシー運転手(写真右)に送迎してもらって、週3回、桜ヶ丘整体院とMKS整体院に通院された。また自宅でも、毎日10回もオイルマッサージをして、「呼吸矯正法」と「四股」をはじめ数種類の筋トレを実行して、徐々に歩く時間を増やしていった。

一進一退ではあったが、1年と5ヵ月たった今では、毎日8時間、起きていられるようになり、30分以上、イスに腰かけていられるようになり、杖なしで70分連続して歩けるようになった!

食事腰かけて食べられるようになり、近場には電車に乗って買い物にも行けるようになった。1年前を思えば、奇跡的な回復だ!

四股スクワットも、毎日50回×4セット、計200回もできるようになり、今でも完全回復を目指して治療とリハビリに励んでいる。

(当人直筆体験談が、『病院で教えてくれない目からウロコの腰痛解消法DVD』販売サイトで閲覧可)

2、子宮頸ガンワクチンで不妊症になる！？

東北沖東日本大地震の後から、女優の仁科親子の「子宮頸ガンワクチンのキャンペーン」CMにウンザリした人は多いだろう。

子宮頸ガンは、HPV（ヒトパピローマ・ウイルス）の感染によっておきるとされ、そのワクチンによって予防できると言われている。

HPVには200種類以上あり、皮膚に感染する「上皮型」と、粘膜に感染する「粘膜型」の2種に大別できる。この粘膜型のうち、発ガン性の高い15種類が子宮頸ガンの原因とされている。

しかし実際には、これらの発ガン性の高いHPVに感染しても、90%以上は免疫によって自然に消失してしまうため、子宮ガンに進展するのは、わずか0,1%程度にすぎない。

また、子宮頸ガンワクチンが予防できるのは、HPV16型と18型だけで、すべての発ガン性HPVの感染を防げるわけではない。日本人に多いのは、HPV52型と58型であるから、日本人の予防効果はほとんど期待できない。

効果がないばかりか、重大な副作用もあり、すでにワクチン接種によって死亡者まで出ている。

「子宮頸がんワクチンの大ウソを暴く」の著者、マイク・アダムス氏は、以下の事実を指摘している。

- ① HPVはごくありふれたウイルスで、感染しても自然に消滅する。
- ② すでにHPVに感染している場合は、ワクチン接種によって、子宮頸ガンの発症リスクが44,6%も増加する。

また、ワクチンに添加されているアジュバンド（免疫抑制剤）の危険性も無視できない。

アジュバンドには、「沈降性タイプ」と「油溶性タイプ」の2種類ある。

代表的な沈降性アジュバンドである「水酸化アルミニウム」は、マウスの実験において、『**脳内の運動ニューロンを死滅させる**』ことが確認されている。人間の脳は、マウスの5倍脆弱であるから、ワクチン接種によって脳機能の一部が破壊されてしまうリスクもある。

一方、油溶性アジュバンドは、死菌を油膜で包んで体内に長期間、残留させる。この大型の異物を封じ込めるために、「肉腫」が形成されることがあるため、発ガンリスクが高まる。

さらに、防腐剤として「有機水銀」も添加されていて、ペットの去勢・避妊薬として開発された成分まで含まれている。

要するに、子宮頸ガンワクチンの接種によって、「不妊症になるリスク」と「子宮頸ガンの発症リスク」が高まるのである。ワクチンの開発メーカーであるグラクソ・スミスクライン社も、「長期間にわたる感染の予防効果および子宮頸ガンとその前駆症状の予防効果との相関性については現時点では不明確」と断り、副作用が大きく、病気予防の効果・効能は保証できない」と言っている。ちなみに英国では、接種を受けた少女の死亡例がメディアで報じられ、米国でも上流家庭の子供は接種していないが、下流家庭の学校では接種が義務付けられている。

3、放射性物質&熱中症対策

5月13日「ゼオライト生命体応用研究会」に参加して、ゼオライトの応用性の広さに驚いた。

講師陣は、50年近くゼオライトの研究を続けてきた佐藤一男先生をはじめ、ゼオライトを使って治療している鷺巣誠獣医師（岐阜大学応用生物科学部教授）と前山和宏医師、そしてゼオライト商品を開発している七沢賢治先生（七沢研究所代表）の4名で、会場は超満員だった。

犬に放射性セシウムを投与して、体内のセシウム分布を調べた実験によると、セシウムはまず

“腸と腎臓”に集まってくる。投与1時間後には、腸に28,3%・腎臓に9,4%、投与3時間後には、腸に21,1%・腎臓に31,9%・心臓に23,6%という分布になり、排出されない分は最終的に筋肉に取り込まれて、投与41日後には、筋肉に19%残留する。

セシウムが血中から腸に排泄されても、再び吸収されてしまう。ところが、腸内にゼオライトがあると、ゼオライトに付着して体外に排出される。ゼオライトは、放射性セシウムだけでなく、プルトニウムやストロンチウム90も吸着されるため、チェルノブイリでも大量に使用された。

ゼオライトは放射性物質のほかにも、農薬・重金属・カビ毒（アフラトキシン）・病原細菌・ウイルス・アレルギーなどを吸着する性質があり、動物の飼料に混ぜて与えることで、体重・繁殖率・乳量・産卵数などが増加し、感染症や中毒、下痢、代謝疾患などの予防に効果がある。

鷺巣先生は、ゼオライトを牛の飼料に混ぜて与えたら、腫瘍が自然に剥離脱落していった症例を発表された。また前山医師は、液体ゼオライトを乳ガンに注射したら、ガンが消滅してしまったという。ゼオライトは、腸内で発ガン性物質「ニトロソアミン」を吸着して排出するほか、P-21腫瘍抑制遺伝子を活性化して、直接ガン細胞を破壊するのだという。

研究会講師4名の共著『放射能デトックス』が、8月末に文芸社から出版される予定。

NASAの観測データによると、今年の3月から太陽の黒点の数が急増しているようだ。だとすれば、赤外線も紫外線も例年より強いはずだ。

皮膚に当たる紫外線は、皮膚の老化を早め、皮膚炎や皮膚ガンの原因になる。

“目”から入る紫外線はさらに深刻で、角膜の炎症や白内障・飛蚊症などの原因となるだけでなく、脳に深刻なダメージを与える可能性もある。脳内に潜伏しているヘルペスウイルス（HHV-6）が活動することで、免疫細胞が脳の一部を破壊してしまうからだ。また、目に紫外線が当たるだけで、体内のメラニン色素の量が増えて、皮膚や腸に沈着していく。

熱中症で倒れるのは、『体内の深部体温の上昇』によって『脳温が高くなる』からである。

熱中症を防ぐには、「十分な水分摂取」と「発汗して体内深部温を下げる」ことが重要だ。

体温を下げる一番の手段は、「発汗」である。ところが、脱水・タンパク質不足や肥満などによって発汗機能が衰えていると、体内の深部体温を下げるできない。

また高齢者には“暑さを感じない”人もいるため、周囲の人がエアコンの温度設定をしてあげたほうがよい。最上階は、高温になった屋根の熱が屋根裏にこもって冷房が効きにくいから、エアコンの温度を低めに設定しよう。光を遮る工夫も効果的だ。

こまめに水分を補給することも重要だが、単に水やジュースを飲むだけでは十分ではない。汗には塩分が含まれているので、塩分と一緒に補給することが重要だ。

また、タンパク質も十分に補給しなければいけない。タンパク質が不足した食生活をしていると、血液中のタンパク質「アルブミン」が減少する。すると血液量が少なくなって、深部体温が体表に巡りにくくなり、汗が出にくくなるのだ。そこでNHKの「ガッテン」では牛乳が推奨されていたが、牛乳を消化できない乳糖不耐症（日本人の約85%）の人は、牛乳がアレルギー疾患や鉄欠乏性貧血、タンパク尿、下痢、虫垂炎などの原因になる。

また牛乳には動物性脂肪が多く含まれていて、1リットルの牛乳を飲めば35グラムもの脂肪を摂取することになる。脂肪の過剰摂取は、心臓病や動脈硬化をはじめ、大腸ガン・乳ガン・子宮ガン・前立腺ガンなどの発生リスクを高めることになる。

タンパク質は、脂肪の少ない肉類・魚類・卵・大豆製品などから摂るのが望ましい。

首を冷やすのは、首コリの原因になるためオススメできない！「ガッテン」で顔を水で冷やすと逆効果と言っていたが、あれは海に潜って水圧がかかったときの話であって、通常は「顔を冷水で洗う」とか「冷水で絞ったタオルで顔を拭く」ことで、脳の温度上昇を防ぐ効果がある。

4、お知らせ

(1)DVD『病院で教えてくれない目からウロコの腰痛解消法』7月29日発売！

昨年の夏に撮影したDVDブック『病院で教えてくれない 目からウロコの腰痛解消法』が、ようやく発売される。

内容は、「腰痛の原因解説」から「姿勢の基本」「オイルマッサージ」「呼吸矯正法」そして「治すための食事法」まで総合的に網羅し、計3時間弱のDVD2枚組+小冊子で、14,800円(税込)。

ちなみに制作に要した時間は、私が行った作業だけでも、企画・準備で3時間・撮影に11時間・映像のチェックとテロップ指示の1回目が22時間・2回目が16時間・3回目が7時間・4回目が4時間、小冊子の直しに1回目が10時間・2回目が2時間で、合計75時間！さらに出版社と映像編集会社のスタッフが費やした時間と労力を考慮すると、かなり安いと思うのだが…。

Catch the Web社から7月29日に販売開始⇒販売サイト：<http://www.yotsu123.com>

(2)新規商品のご案内

『紅豆杉』

海拔4000メートルの山岳地帯・中国雲南省に自生する紅豆杉^{こうとうすぎ}のお茶。近年日本で『ガン・関節リウマチ・花粉症・C型肝炎・糖尿病などに有効』であることが医学的に証明されている。

『ピクノジェノール スーパーPDR』

フランス海岸松の樹皮のエキス。生理痛や子宮内膜症、下肢静脈瘤などの改善に！

『ゼトックス』

ナノ粒子化した出雲産天然ゼオライトを主成分に、フルボ酸(植物性強力葉緑素)と天然湧水・海洋深層水を配合した、デトックス用健康飲料。

(3)松原秀樹のセミナー

『合気ウォーキング教室』(要予約)

場所：THD (トータルヘルステイ) 東京元気アップショップ 8F

日時：第2回目：7月5日(火)・8月2日(火)・9月6日(火)の、午後1時～4時

第3回目：10月4日(火)・11月8日(火)・12月6日(火)の、午後1時～4時

『体質改善コンサルティング』(予約制)

場所：THD 東京元気アップショップ 7F

日時：7月26日(火)・8月30日(火)・9月26日(月)・10月25日(火)の、午後1時～6時

いずれも申込は⇒東京元気アップショップ (TEL：03-5444-3241) へ。

『合気ウォーキング講座&暮らしの知恵講座』in 京都

場所：THD 京都本社 (京都府木津川市相楽台)

日時：10月18日(火)・19日(水) 合気ウォーキング講座：10～12時

暮らしの知恵講座：13時半～16時半

申込⇒THD 京都本社 TEL：0120-94-8107 または 0774-72-5889

体質研ニュースは、3ヶ月毎に発行しています。次回は10月の予定。